

写真：「原子力の嘘、嘘、嘘」のポスターを持つスラーデクさんの夫・ミヒヤエルさん。同社のオーナー代表でもある

# Rihoの ドイツ便り

No.59

## 原子力に反対する 100個の十分な理由

再生可能エネルギーのみを供給するドイツのシエーナウ電力会社 (EWS - Elektrizitaetswerke Schoenau) はこのほど、「原子力に反対する100個の十分な理由」の日本語訳を作成した。福島原発の事故をきっかけに、日本人々にも原子力エネルギーの危険性について知ってほしいと、オンラインで無料で公開している。知っているようでよく知らないことが淡々と記されており、これを読むと原子力にメリットなどないことが一目瞭然だ。

シエーナウ電力会社は、チェルノブイリをきっかけに、5人の子どもの持つ主婦ウアズラ・スラーデクさんの反原発運動から発展した会社である。南ドイツにあり、再生可能エネルギーのみを扱っている。ドイツは1998年の電力自由化により、1000ほどの電力会社が乱立。人々はこの電力会社からでも電気を購入できるが、再生可能エネルギーのみを供給する会社は同社を含めて4社しかない。

「原子力に反対する100個の十分な理由」は、「安全基準と健康被害」「事故と大災害のリスク」「気候保護と電力供給」など10の項目に分かれている。例えば、ウランについて「ウラン鉱山業からの強毒性の汚泥は、住民と環境を脅かす」、温室効果については「原子力からの電気はCO<sub>2</sub>フリーではない。ウラン採掘やウラン精製、ウラン濃縮には莫大な量の気候変動の原因となる温室効果ガスが排出される」、最終処分場については「世界中どこにも、安全な高レベル放射性廃棄物の最終処分場は存在しない」としている。電気料金や核廃棄物の処理などドイツの具体例もあり、日本に当てはめて考えることができる。

末尾には「破局的な大災害」「故郷の喪失」など、福島第一原発の事故について参照できる項目が列記してあり、スラーデクさんは「福島での事故が、少なくとも日本の脱原発につながればと願う」と話し、多くの人に読んでほしいとしている。

原子力に反対する100個の十分な理由 (日本語版)

[http://100-gute-gruende.de/pdf/g100rs\\_jp.pdf](http://100-gute-gruende.de/pdf/g100rs_jp.pdf)

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

ドイツで子育て♪



ドイツ最大の環境教育施設・ハノーファー学校生物センターで、年に一度のお祭り「環境フォーラム」がありました。3歳10ヶ月の明は興味深々。ネズミに触り、ソーラークッカーで焼いた目玉焼きをほおばり、センターのハチが集めた蜂蜜のパンを食べ、大満足の様子。色とりどりの切花があり、5本まで好きなのを選んで花束にもらうことができますのですが、明は小さくて地味な花、しかも黄色ばかり選びました。

パン生地をこねて石釜のオープンで焼いたり、土壌の虫を顕微鏡で観察したり、歯磨きして歯ブラシをもらうなど盛りだくさん。職員のヨークも元気そうでした。残念ながら、明は怖がり、ポニーには乗りたがらず、大きな甲虫を手にとせるのは嫌がりましたが、以前亀を見て泣いたことを思えば大進歩。楽しみながら自然に興味を持つにはぴったりの催しで、毎年楽しみにしています。